

福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

株式会社サクセスアカデミー

にじいろ保育園磯子

横浜市磯子区磯子 3-13

【評価対象種別】

保育所

【使用評価項目】

横浜市版

●実施概要	P1
●総合評価	P2 ~P3
●分類別評価結果	P4 ~P16
●利用者家族アンケート結果	P17~P25
●利用者本人調査結果	P26~P27
●事業者コメント	P28

2016年12月

評価実施機関：合同会社 評価市民・ネクスト



【評価実施概要】

事業所名	株式会社サクセスアカデミー にじいろ保育園磯子
事業所への報告書提出日	2017年2月1日（評価に要した期間） 7か月
評価機関	合同会社 評価市民・ネクスト

●評価方法

1、自己評価 実施期間 2016年6月2日～9月16日	<p>①①全職員に、第三者評価受診の趣旨を説明した。 グループごとに勉強会を行い、にじいろの保育について確認した後、自己評価に個々で取り組み記入した。</p> <p>②勉強会のグループで、個々の自己評価を発表し、意見交換をしながらグループごとにまとめた。課題が見つかった場合は、今後の改善策の提案をするようにした。</p> <p>③グループごとの評価を基に、園長・主任・乳児リーダー・幼児リーダーで再検討して協議し、園長が最終版自己評価にまとめた。</p>
2、利用者家族アンケート調査 実施期間 2016年8月18日～9月1日	<p>① 全園児の保護者（56世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配布した。</p> <p>② 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
3、訪問実地調査 実施日 第1日：2016年10月18日 第2日：2016年10月20日	<p>[第1日] 午前：保育観察。 昼食：園児と一緒に食べながら保育観察。 午後：書類調査。園長・主任・運営法人スーパーバイザー・保育アドバイザーにヒアリング。</p> <p>[第2日] 午前：朝は登園の様子を観察。その後各クラスで保育観察。 昼食：園児と一緒に食べながら保育観察。 午後：各クラス担任保育士6名、看護師1名、栄養士1名、新任保育士・非常勤職員各1名、主任に順にヒアリング。 その後、園長・主任・運営法人スーパーバイザー・保育アドバイザーにヒアリング。最後に意見交換を行い、終了。</p>
4、利用者本人調査 実施日 第1日：2016年10月18日 第2日：2016年10月20日	<p>① 観察調査を調査員が各クラスで実施し、戸外・園外での活動も観察した。</p> <p>② 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

【施設の概要】

「にしいる保育園磯子」は JR 京浜東北線磯子駅から徒歩7分の高台にあります。高台の下には専用のエレベーターがあり、高台に上がると全 13 棟 1 2 7 0 世帯が居住するプリリアンシティ磯子があり、K 棟の地上 10 階建ての 1 階部分にあります。併設施設には小児科・内科・歯科、薬局などのクリニックモールがあります。保育園には園庭があり、各クラスの部屋から直接出入りが出来ます。砂場あそび・鬼ごっこ、夏にはプール等の遊びをしています。また、野菜や花をプランターで育てています。2014 年(平成 26 年)4 月に開園した定員 70 名の認可保育園です。生後 5 7 日から小学校就学時未満の子どもを受け入れています。開園時間は平日 7 時から午後 8 時、土曜日は午前 7 時から午後 6 時です(延長保育を含みます)。

運営法人は、株式会社サクセスアカデミー(以下運営法人)です。運営法人は、事業所内保育施設(大学、病院、企業)の受託運営、認可保育園・東京都認証保育所(にしいる保育園)の運営、公設民営保育園の運営、学童クラブ・児童館・全児童対策事業施設の運営、保育施設運営のコンサルティングサービスなど首都圏を中心に幅広く展開しています。

保育理念を「こども理念」として『のびやかに育てだいちの芽』、保育方針は「こども理念」に基づいて『みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛』としています。また、めざす保育園像として「陽だまりのような保育園」「地域と共に育つ保育園」「子どもと共に輝いていける保育園」を掲げています。

●特長・優れている点

【1】全てのクラスで子どもの意向がしっかり受け止められています

子ども主体で一日が過ぎていきます。保育士たちは園児が何をやりたいのかを常に観察しながら、おもちゃ遊びを考えています。もっとやりたいことが増えていくように園児の興味をとらえて、おもちゃを選び、手作りもしています。食育ではもっと食べたいものが多くなるように苦手な野菜などを育てて、みんなで味わってみたりしています。園児は登園すると自分のやりたい遊びのおもちゃや教材を出してきて、好きなコーナーに落ち着いたり机に向かったりして遊び始めます。何人かの発想で小さい木の積み木や木製のレールを組み合わせて複雑な建物を作ったり、洗濯ばさみを厚紙に付けて動物に見立てて友だちに見せに行ったり、新聞紙を身にまとってスカートやマントにしてふざけ合ったり、子ども同士の遊びを発展させています。集団遊びも園児の興味中心に展開します。また、集団生活のきまりや生活習慣が身につくように、保育士たちは強制ではなく子どもの興味・関心を引き寄せるように働きかけます。そのような環境の中で園児たちはのびのびと穏やかに遊びに集中し、生活し、集団の中で自分を発揮しています。

【2】職員一人ひとりが主体的に園内研修に取り組み保育の質の向上に努めています

年 3 回行われている園長面談では全職員が作成する「チャレンジ共有シート」を用いて職員の気づきを促しています。園長は面談で職員が希望する研修を聞いた上で受けて欲しい研修を伝えています。そして職員と振り返りを行いながら職員一人一人の年間研修計画を立てています。

年間研修計画は法人本部研修・外部研修・園内研修の 3 つを調整しながら作成しています。その中でも職員の気づきと自主性を大切にしている園内研修では「手遊び」・「手作りおもちゃ」・「運動あそび」の 3 つのテーマがあります。職員一人一人からアンケートを取り集計しリーダー会議で話し合います。話し合いで決まった内容に沿って、クラスごとの年齢に合った「手遊び」、「手作りおもちゃ」、「運動あそび」を 2 か月に

1回のペースで学んでいきます。また、学んだ事は実際に保育に取り入れています。例えば遊具は手作りおもちゃ研修から学んだことを生かして、園児たちの興味を探りながら、牛乳パックやペットボトル等の廃材を再利用するなどいろいろな工夫をしています。そして、後日取り入れた内容は振り返りを行い、次の研修に繋げています。園内研修を通じてクラスごとに話し合う機会を増やし、チームワークを育てると同時に職員一人一人が主体的に学ぶ姿勢を育くみ保育の質の向上に努めています。

【3】地域や保護者とのつながりが子どもたちの保育に生かされています。

開園3年目を迎え、地域や保護者とのつながりが実ってきています。マンションの管理事務所との友好的な関係を目指して働きかけ、毎月園だよりを届けるなど地道な努力をしてきました。その結果、園の活動に関心を持ってもらえるようになり、今年度の夏祭り「にじいろ祭り」では神輿担ぎを地域の広場まで行くことを、管理事務所を通してマンション理事会へ案内してもらい理解を得て実施することが出来ました。「もっと広く利用してくれ」という話も出ました。また、保護者からは「園の行事の手伝いをしたい」という声も出てきて、保護者が自主的に運動会の準備を手伝ってくれました。

このようなつながりを大切に、園児たちの園生活が更に充実しています。

●さらなる取り組みが期待される点

育児相談の情報発信に更なる工夫が期待されます。

育児相談機能として臨床心理士による相談を毎月一回、日時を決めて申込制で行っています。保育園の専門性を生かす活動としての育児相談は、随時行うとして相談日を設けてなく、お知らせは玄関前の提示にとどまっています。絵本の貸し出しや親子ふれあい広場の案内チラシは駅前の子育て支援センターやマンションの管理事務所を通して各棟の入口に掲示しています。その成果としてマンション住民の親子5～6組が絵本の貸し出しを利用するようになりました。それらと同じように育児相談日を設定し、定期的に受けられる案内チラシを作成するなど情報発信する工夫をし、地域のニーズの把握に向けた子育て支援機能に努めることが期待されます。

分類別評価結果



「ひょう太」 3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

横浜市の評価基準に基づいて、各評価分類は1～6つの評価項目によって構成され、評価項目の評価結果によって、評価分類の評価結果が決まります。

評価領域Ⅰ 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p> <p>(1) 保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2) 保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。</p> <p>(3) 日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 保育理念「のびやかに育てだいちの芽」そして基本方針「みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛」は温かな環境のもとで一人一人を大切にしようとする考えを大切にしている利用者本人（子どもたち）を尊重しています。そして保育理念・基本方針を全職員が年度初めの職員会議やパート会議で確認しています。また、いつでも確認ができるように、玄関・職員室・各保育室・トイレ・休憩室等に掲示し、常に意識した保育を実践しています。 • 保育課程は子どもの最善の利益を第一義にしている保育理念・基本方針に沿って作成しています。クラスごとに子どもたちの成長を見ながら毎年度見直されています。 • 日々の保育で子どもたちが散歩の行先を決めることがあったり、遊びたいあそびを考えて遊ぶなど子どもの意見や意向を汲み取っています。また、行事ではにじいろ祭りにどういうお店を出すかについてや、運動会で「組体操をしたい」という気持ちなどを大切に、子どもたちの意思を実現しています。そして指導計画には柔軟性を持ち子どもの興味・関心や季節感を大切にしています。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> <p>(1) 入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。</p> <p>(2) 新入園児受け入れ時の配慮を十分しているか。</p> <p>(3) 子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。</p>	<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 入園前に面接を行い、生育歴・家庭での状況・生活・健康面の聞き取りで把握しています。把握したものは個人ファイルにして全職員がいつでも一人一人の発達状況や課題が確認できるようにしています。 • 新入園児には段階的に短縮保育を進めながら安心できるように慣れ親しんだものを持ち込めるようにしたり、なるべく同じ保育士が関わられるように配慮するなどして、在園児に影響が出ないように保育の体制を作っています。 • クラス会議や打ち合わせは複数の担任で話し合い意見や気づきを大切にしています。子どもの興味関心など状況をよく把握し、取り組みが継続できるように指導計画を作成しています。

I-3 快適な施設環境の確保



- (1) 子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。
- (2) 沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3) 子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- 掃除マニュアルがあり、それに沿って玄関の掃き掃除・園庭の掃除などを行っています。また、エアコンのリモコンの下には夏と冬の適温と湿度を掲示して管理をしています。午睡時には子どもの表情が見えるようにカーテンで採光を調整しています。
- 0歳児クラスには沐浴設備があり、夏季は皮膚の清潔を維持し、快適に過ごせるように日中できるだけ沐浴する機会を設けています。また、温水シャワーがあり、お散歩で汗をかいた時はシャワーで清潔を保っています。
- 低年齢児にはパーテーションや遊具の棚などで空間を仕切ったりラグマット・ジョイントマットなどを利用して、コーナーを作って落ち着いて遊べる環境づくりをしています。幼児クラスは、自主的な活動が行えるよう、動線など日々の保育を振り返り最適な保育環境の工夫をしています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- (1) 子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに合った個別指導計画を作成しているか。
- (2) 子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。


- 年齢ごとに3歳児未満は一人一人の状況に応じて個人指導計画を作成し、幼児クラスでは個別配慮が必要な場合は対応を話し合い、個人票の補助簿や月案の個別配慮欄に記載しています。
- 入園時に児童調査票を提出してもらい、日々の一人一人の発達状況を把握し個人ファイルに記録しています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み




- (1) 特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。
- (2) 障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。
- (3) 虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (4) アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。

- 個別に配慮を要する子どもについては、朝礼や職員会議で話し合い、内容を記録して全職員に周知し共有しています。
- 園内はバリアフリー対応で、トイレは車いす使用ができます。また、いつでも障害児に対応できるように配慮を要する子どもの対応などの研修会に参加して、職員会議で研修報告を行い、全職員が共有しています。
- 日々のおむつ替え・着替え・身体測定時などで、全園児を観察、確認しています。虐待の疑わしい場合には、すぐに園長に報告し見守りつつ関係機関に連絡します。
- 主治医の記入したアレルギー疾患生活管理指導票を基に、園長・主任・クラス担任・看護師・栄養士の様々な職種が対応方法を話し合います。話し合ったアレルギー対応の内容は、職員会議等で全職員と共有しています。
- 文化や生活習慣、考え方の違いを尊重し特に中国籍の子どもが多かった

(5) 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。	ので、中国語の言葉について辞書を利用して理解に努め、幼児クラスではいろいろな国の数字の表現を紹介し、違う文化が意識できるように配慮しています。
	
<p>I-6 苦情解決体制</p> <p>(1) 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。</p> <p>(2) 要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • にじいろ苦情解決システムがあり入園時に説明しています。また、玄関に「スマイルボックス」を設置し苦情や要望を言いやすいように配慮しています。 • 第三者委員を設置し、直接連絡が出来るよう苦情解決に向けた対応と解決する仕組みがあります。迅速に対応出来るよう過去の要望・苦情に関しては記録し、解決に生かせるようにしています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類		評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）	
<p>Ⅱ-1 保育内容〔遊び〕</p> 		
<p>(1) 子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができていますか。</p> <p>(2) 遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。</p> <p>(3) 動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。</p> <p>(4) 子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。</p> <p>(5) 遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。</p> <p>(6) 積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 各クラスとも室内構成はその年齢や発達にふさわしい動線を考え、コーナーを作ったりマットを敷いたりして、子どもたちが落ち着いて遊べるようにしています。おもちゃも年齢や発達にふさわしいものを選び、子どもが自由に取り出せるように棚に設定し、興味を持ち始めたおもちゃを加えたりします。子どもが関心を持った他クラスのおもちゃを借りてくることもあります。また、子どもたちが今興味を持っているものを考えたおもちゃを手作りもします。 • 自由に遊ぶ時間に、子どもたちはそれぞれ好きなコーナーなどに気に入ったおもちゃを持って行って遊んでいます。時間にはゆとりをもち、遊びが発展している時には保育士は時間で切らずに見守り、適当な時を待ちます。公園で遊ぶ時なども同様です。 • 一斉活動は、自由に遊ぶ中から子どもたちの興味をとらえ、年齢に応じて取り入れています。例えば鬼ごっこの場合、自由に遊ぶ時間に保育士が鬼になって0歳児を追いかける追いかけごっこから始まり、年齢に応じて子ども同士で追いかける追いかけっこへ、そして子どもたちが作ったルールで子どもが鬼になる鬼ごっこへと子ども主体での遊びになっていきます。また、鬼につかまった子どももルールに従って復活したり、子どもたちがより複雑なルールを作ってみんなで楽しむようになっていきます。保育士はルールを守ることで楽しめる、ということ子どもたちが経験するようにフォローしながら、友だちと一緒にみんな遊ぶ楽しさを味わえるように配慮しています。 • 園庭でクラスごとに野菜や花の栽培をしています。朝顔、じゃがいも、ナス、キュウリ、インゲン、オクラなどなどです。5歳児クラスはバケ 	

ツ稻にも挑戦しました。種まき、苗の植え付け、観察、水やり、そして収穫となり、手で触って感触を楽しみ、クッキングや野菜のスタンプなどにも活用しています。苦手な野菜を育てて食べることによって食べられるようになった経験もしています。

- 地域には様々な公園があります。園で散歩コースの地図やチェック項目を作り、自然に触れながら安全に園外保育ができるようにし、積極的に出掛けています。
- 散歩でバッタを捕まえて園に持ち帰って観察したり、カブトムシの飼育箱を玄関に置き、卵から幼虫になるのを皆で観察したりしています。
- 園全体で、子どもたちの年齢に合わせたリトミック、ダンス、楽器遊び、造形活動、劇ごっこなどを取り入れています。
- 幼児クラスは各自が道具を入れる引き出しと自由画帳を持っていますが、それとは別にみんなのクレヨンや粘土、広告紙を切ったおりがみ、裏紙、様々な廃材などを用意して、子どもたちが自由に使えるようにしています。子どもたちは自由な時間に日常的に自分の自由画帳を持ってきて絵を描いたり、製作をしたり、遊びながら歌を歌ったりしています。
- 乳児クラスから手あそびや絵本の読み聞かせ等を通して簡単な言葉の繰り返しなどを皆で楽しみ、言葉の面白さを伝え、子どもたちが自発的に言葉を楽しむようになることを大切にしています。
- 子どものケンカは、子ども同士で解決できるように保育士が見守りますが、必要に応じて両者の言い分をよく聞いて、互いに相手の気持ちが理解できるように支援しています。乳児のかみつきなどは、まずはそれが起こらないような見守りや配慮をしています。たとえば4人乗りのバギーに乗る際の席の配慮や、その時期に人気のあるおもちゃの数の配慮などです。ケンカの対応について職員同士で振り返りもしています。
- 日常の保育で他クラスと一緒に公園に行ったり、同時に園庭で遊ぶような計画を立て、異年齢の子ども同士が関わりを持てるように配慮し、年齢の低い子どもたちを見守ったり、思いやったりする気持ちが育つようにしています。
- 園内研修で年齢に応じた運動遊びを職員同士で学び、研修の内容を自分のクラスに取り入れて実践し、振り返りをしています。
- 運動能力を高められるような遊びの環境としては、子どもたちの発達過程に合わせて、マット運動、トンネル遊び、跳び箱、平均台、鉄棒など様々な運動を遊びの中に取り入れています。0、1歳児クラスでは体の動きに合わせてハイハイや歩きでトンネルくぐり、マットの山登り降り、大きな手作り枠の段に乗る、超えるなどの室内遊びをしています。幼児クラスは普段の運動遊びとは別に運営法人から体操の先生が派遣され、体操教室が月に2回行われています。年齢に応じたカリキュラムを担当や主任の意見も入れて作成しています。子どもたちは体操教室の遊びを楽しみにしています。



- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> (7) 食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。 (8) 食事の場、食材、食器等に配慮しているか。 (9) 子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。 (10) 子どもの食生活について、家庭と連携しているか。 (11) 午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。 (12) 排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。 | <ul style="list-style-type: none"> • 年齢別の食育年間計画を作成しています。 • 食事については、基本的には好きなものを増やす、という方針で、子どもが自分から食べようとする気持ちを大切にしています。まずはお腹がすくように遊びをたくさんすること、乳児では落ち着いて食べられるように適切な椅子を用意すること、そして楽しい雰囲気食べるようにしています。 • 苦手なものも食べられるようになる工夫として、苦手な野菜を園庭で子どもたちと一緒に栽培しています。それをみんなで食べてみたり、栄養士が子どもの苦手な野菜の人形を作って食べてくれないと泣き、食べてくれるとニコニコする寸劇をして見せたりしています。このような工夫により、何人もの子どもたちが食べられるようになった、好きになったという実績があります。 • 4歳児クラスでは当番が机を拭きます。5歳児クラスでは当番が給食を取りに行き、ご飯をよそったり、配ったりし、完食した日には給食室に空のバケツを見せにいきます。また、食事の前に当番がメニューを読み上げ、栄養士が食物の働き3分類のボードを持ってきてその日のメニューの食材の働きを一緒に考えます。当番のないクラスでも、保育士が給食室に食事をもらいに行く時に子どもが何人かついていき、給食室に親しんでいます。 • クッキングは3歳児クラスから始まり、おにぎり、マカロニグラタン、かぼちゃパイ、うどん、ひじきご飯、焼きそばパン、ナンカレーなどを作っています。クッキングの食材を買いに行くこともあります。 • 献立は運営法人が作成したものを使っていますが、季節感のあるメニューになっています。また今年度は園独自で郷土料理を取り入れ、毎月1回、一年をかけて日本全国の郷土料理を提供しています。行事食も園独自のアイディアで子どもたちの食欲がわくようなメニューを考え、子どもたちの作ったランチョンマットを敷いたり、花を飾ったりします。 • 食器は強化磁器の陶器を用い、食材は成分表を確認して発注し、安全性に配慮しています。 • 栄養士も食事時に保育室を見回り、実際の食べ具合を見ています。盛り付けは色合いや高さに、また複数の食材が平均に盛り付けられるように配慮しています。 • 残食はクラスごとに記録しています。献立は月2サイクルなので、残食の多いものは、給食会議で検討し調理方法を変えるなど工夫しています。 • 給食だよりに、その月の旬の食材や献立の工夫を紹介しています。また、献立のサンプルとレシピを玄関に置き、保護者が自由に持っていけるようにしています。郷土料理についてはその都度レシピを配布し、提供した料理の写真と日本地図を掲示するなど、保護者が園の食事に関心を持つように努めています。 |
|---|---|

- 年に2回試食会を設定し、それぞれ3クラスずつ園の食事を試食してもらい、味付けや、かたさの具合などを実際に味わってもらっています。その際、栄養士が各クラスをまわって園の食事で大切にしていることや配慮事項などを説明し、保護者からの質問や意見を聞いています。アンケートも実施しています。
- 子どもたちが安心して眠りにつけるように、部屋はいくらか暗くし、保育士がそばについて子どもの体をトントンしたりしています。眠れない子ども、眠くない子どもに午睡は強要しませんが、静かに体を休めるように説明し、横になるようにしています。
- 5歳児クラスは秋から午睡の時間を短くしていき、子どもの状況により年明けから午睡をなくしています。しかし、子どもの様子により、必要な子どもは午睡するようにしています。
- トイレトレーニングは、トレーニングを始める前に、個々の排泄リズムをとらえるようにしています。0歳児クラスでは、おまるを用意し座りたい子どもが座れるようにしています。1歳児クラスでは、トイレに親しむように、おむつ替えをトイレで行っています。2歳児クラスになると、一人一人の状況に合わせ家庭と連絡をとりながらトレーニングを進めています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- (1) 子どもの健康管理は、適切に実施されているか。
- (2) 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。
- (3) 感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

- 運営法人作成の健康管理に関するマニュアルがあります。それに基づいて担当が子ども一人一人の健康状態を把握するようにしています。看護師には運営法人作成の「保健師の業務」というマニュアルがあり園全体の子どもについて責任を持っています。
- 内科の健康診断は年に2回、歯科健診は年に1回実施しています。健康診断・歯科健診・身体測定の結果は個別に「健康の記録」に記載し、保護者に対しては、診断の度に「健康の記録」を確認してもらい、印をもらっています。嘱託医と歯科医には毎月園だよりを送付して園の様子を伝えています。
- 感染症に関しては、運営法人作成の感染症対応マニュアルを使用しています。マニュアルには登園停止基準や保育中に感染症の疑いが生じた場合の対応が明記されています。保護者には「入園のしおり」及び「重要事項説明書」に保育園における感染症による休園の基準や登園届けの必要な感染症などを明記しています。入園説明会の際に看護師から説明し周知しています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- (4) 衛生管理が適切に行われているか。

- 運営法人作成の「衛生管理・掃除」のマニュアルを使用しています。
- マニュアルは朝のミーティングや職員会議等で必要に応じて現状に即して適宜見直し再確認をしています。また、看護師が新任職員と移動して

きた職員に嘔吐研修を行い、全職員対象に年に1回嘔吐処理の実習研修をしています。その他、熱性痙攣やAEDに関して、全職員対象に研修を行っています。

- 掃除マニュアルに基づき、園として0歳児クラスの掃除方法を具体的に詳しく記載したものを作成し、それにしたがって清掃しています。他クラスに関しては消毒の方法を具体的に定め、また「トイレ清掃チェックシート」を作成し、清掃の手順を記載してチェック欄を設けています。その他の掃除の方法は各クラスに任せています。園内は清潔に保たれています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- (5) 安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
- (6) 事故や怪我の発生時および事後の対応体制が確立しているか。
- (7) 外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- 運営法人作成の「安全管理」をマニュアルとして使用しています。
- マニュアルは、事故・不審者・危機等に適切に対応した内容になっています。全職員に周知し、保育士は子どもの年齢別の「事故防止確認表」を毎週1回、「保育園安全点検表」を月に1回チェックし、更に「セルフチェック表」を使用して、安全・予防への自覚を高めています。
- 地震・火災を想定した避難訓練を月に1回実施し、その際、保護者への引き渡し訓練を年に1回、地域の広域避難場所まで避難する誘導訓練を年に1回実施しています。そのほかに、不審者対応訓練を年に4回実施しています。避難訓練・不審者対応訓練の際には、通報や連絡体制の予行演習も行い、保護者との安心伝言板の送受信訓練も行っています。それとは別に地域の消防署立会いの避難訓練・通報訓練を実施し、通報や訓練時の指導を受けて生かしています。訓練後には振り返りを行って記録し、次回に生かしています。
- 子どものケガは軽傷であっても、子どもの様子や、行った手当などを保護者に報告しています。次の登園時には、その後の様子を聞いて他の職員にも報告し周知しています。
- 子どものケガについては、ケガに至らなかった場合も含めて「ヒヤリハット」或いは「アクシデントレポート」を作成し、全職員に回覧周知します。場合によってケース会議を開いて原因追究、事故予防改善策を検討し、再発防止に努めています。受診した場合は「事故報告書」を作成して運営法人に報告し、その日のうちにケース会議を開きます。
- 不審者侵入防止対策として、園の玄関がオートロックにしてあり、インターホンを使用して来園者の確認をしてから施錠の解除をしています。園庭にある非常口は常に施錠しています。緊急通報は、事務所等からマンション内警備室への通報ボタンで直接通報できるようになっています。

II-3 人権の尊重



- | | |
|--|---|
| <p>(1) 保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。</p> <p>(2) 必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。</p> <p>(3) 個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。</p> <p>(4) 性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。</p> | <ul style="list-style-type: none">• 採用時に運営法人で人権の研修を行っています。園では年度初めの保育課程の見直しの際に、必ず人権に関する確認を行っています。• 各クラスとも、子どもの気持ちを尊重し、叱るよりもやりたい気持ちになるような声掛けをするように努めています。保育中に気になることがあった場合はクラス会議や職員会議の場で話し合い、振り返りをします。• 友だちや保育士の視線を意識せずに過ごせる場所を特別に用意はしていませんが、各クラスともコーナーを設けているので、ままごとコーナーの片隅や、保育士が設定した衝立の内側等が、子どもにとって他の人の視線を意識しない場所となっています。• 保育室の片隅等は子どもに威圧感を与えずに話し合える場所になっています。また、事務室の看護スペースや玄関はプライバシーを守れる場所となっています。午睡前後の着替えや身体測定の際等は、カーテンを閉めて外から見えないようにしています。• 守秘義務については運営法人の採用時研修で学び、入社時に機密保持契約書にサインをしています。実習生・ボランティアにも活動開始時に説明をし。機密保持契約書にサインをもらっています。• 個人情報の取り扱いについては、運営法人作成の個人情報に関するマニュアルがあり、それをガイドラインとして全職員に周知しています。• 保護者に対しては、入園時に個別に個人情報取り扱いについて説明し、画像使用に関する「個人情報承諾書」にサインをもらっています。また、画像を園のブログに掲載する時、第三者に提供する時には、保護者に確認したうえで使用しています。• 持ち物や服装、製作等で色や形などの性差の区別はしていません。また、順番やグループ分け等でも性別にしています。行事やクラスだより等では全園児を「さん」づけで統一しています。• 性別を意識せずに遊びや活動を行い、「男の子だから」「女の子だから」というような性差による固定観念を持たせないように配慮しています。ひとり親家庭への配慮から「母の日」「父の日」は行わず、ごっこ遊びの会話にも注意するようにしています。 |
|--|---|


II-4 保護者との交流・連携



- | | |
|---|---|
| <p>(1) 保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。</p> <p>(2) 個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。</p> <p>(3) 保護者の相談に応じているか。</p> | <ul style="list-style-type: none">• 保護者に対して、入園説明会で「入園のしおり」「重要事項説明書」にそってわかりやすく保育理念・保育方針を伝えています。年度初めの園だよりで再度伝え、懇談会ではクラス別に年間の基本方針を伝えています。• 子どもの送迎時、特にお迎えの時に保護者に子どもの様子を伝えるように努めています。乳児は詳しい連絡帳で、睡眠や食事等の生活面と共に家庭での様子、園での様子を伝え合うほか、口頭でもコミュニケーションをとるようにしています。幼児の場合、希望者は幼児用の連絡ノート |
|---|---|

<p>(4) 保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。</p> <p>(5) 保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。</p> <p>(6) 保護者の自主的な活動の援助や意見交換を行っているか。</p>	<p>を使って保育士との伝え合いをしています。クラス全員のために日々ボードにその日の活動の様子を書き、折に触れて遊びや散歩等の写真も掲示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 年に2回全園児の保護者に個別面談を実施して情報交換をしています。その他必要な場合にはその都度個別面談を設定しています。懇談会は年に3回クラス別に実施し、クラス全体の様子を伝えています。 • 保護者からの相談は送迎時に口頭で受けることが多いですが、ゆっくり話し合いたい場合は会議室を使用し、他の人に聞かれずに安心して相談できるようにしています。 • 相談内容によって、園長・主任の助言を受けることも、看護師・栄養士・臨床心理士が対応することもあります。 • 毎月、「にじいろだより（園だより）」、各クラスだより、「給食だより」、「ほけんだより」を発行しています。また、日常的に、各クラスの保育の様子を写真に撮り、できるだけリアルタイムに掲示しています。運営法人のブログには定期的に園の保育の様子を写真にコメントを付けて掲載しています。 • 保育参加は日程の調整がしやすいように、懇談会の日に設定していますが、希望があれば常に受け入れる体制があります。 • 保育参加、懇談会に参加できなかった保護者には「報告書」を提示して内容や連絡事項を確認してもらい、サインをもらっています。 • 昨年度、保護者から保育行事に協力して手伝いたい、という申し出があり、保護者代表が中心になり全保護者に呼びかけました。その結果、今年度の運動会の準備に11人の保護者が参加しました。
--	--

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<p>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> <p>(1) 地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2) 地域の子育て支援ニーズに応じた施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<div style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> • 絵本の貸し出しや園の見学の際、また園で企画している地域活動の「ふれあい親子広場」実施後にアンケートを配布し、要望を聞いています。また、磯子区の子育て支援交流会「わくわく親子フェスタ」に企画段階から実行委員として参加し、地域の子育て支援団体と情報交換をしながら支援ニーズを検討しています。 • 園で、園庭開放、育児相談、絵本の貸し出し、ふれあい親子広場、体験保育を実施しています。

Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能



- (1) 地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。
- (2) 相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。

- 園からのお知らせは、育児相談の案内を玄関前に掲示し、絵本の貸し出しや親子ふれあい広場の案内チラシを駅前の子育て支援センターやマンションの管理事務所に置いています。マンションの管理事務所を通してマンションの各棟の入り口にも掲示しています。
- 育児相談を随時行う旨掲示をしていますが実績はまだありません。臨床心理士による相談は毎月1回行っています。
- 磯子区こども家庭支援課や南部地域療育センターとは日常的な連携ができています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<h3>Ⅳ-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</h3> <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育園に対する理解促進のための取り組みを行っているか。 (2) 子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。 	<div style="text-align: right;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 園の行事である運動会、にじいろ祭り、コンサート、人形劇、毎月の誕生会に地域住民を招待しています。また、年に2回実施する「ふれあい親子広場」で施設を開放しています。今年度から、地域向けに絵本の貸出日を月2回設け、広い玄関ロビーに絵本ラックや遊具等を設定し時間を決めて開放し、絵本を貸し出しています。 • 園外保育で地域の公園、図書館を利用しています。地域の3か所の公園と2つの散歩コース、図書館について、「お散歩チェック項目」と題した散歩マニュアルを作成しています。 • 公園で他の園の子どもも来ている時には一緒に遊ぶなどの交流をしています。また、年に1回老人保健施設を4歳児が訪問し、年に2~3回近隣の保育園の絵本の読み聞かせに参加し、5歳児は小学校2校の学校訪問をしています。 • マンションの地域活動「マネジメント倶楽部マルシェ」が月一回開催され、野菜などの屋台が出店したり、昔の遊びを一緒に遊ぶイベントを企画したりしています。子ども向けのプログラムのある時には子どもたちが参加しています。
<h3>Ⅳ-2 サービス内容等に関する情報提供</h3> <ul style="list-style-type: none"> (1) 将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。 	<div style="text-align: right;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 園の情報は運営法人のホームページや園のパンフレットで提供しています。市と区には定期的に情報を提供しています。また、区で年1回実施する、保育園・幼稚園の紹介活動「パネル展」で、園を紹介するパネルを作成展示するとともにパンフレットを置いています。


(2) 利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 園への問い合わせには常時、園長か主任が対応しています。園の見学は子どもたちの活動を見ることができるよう時間帯を勧めています。見学希望者の都合も考慮して相談に応じています。
-----------------------------	---

IV-3 ボランティア・実習の受け入れ





<p>(1) ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。</p> <p>(2) 実習生の受け入れを適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運営法人作成のボランティア受け入れマニュアル・実習生受け入れマニュアルを全職員に配布しています。マニュアルに従い、ボランティア・実習生受け入れ前にはオリエンテーションを行っています。園の基本方針・目標・大切にしている関わり方、個人情報管理等について説明し、個人情報管理に関しては「機密保持誓約書」にサインをもらっています。 ボランティアの受け入れと育成は、園長と主任が担当し、受け入れ時の記録をファイルしています。人形劇ボランティアや、ミニコンサートボランティアでのふれ合い遊び、曲の選び方などを園で取り入れて活用しています。 実習生の実習目的に応じて実習内容を決め、実習の計画立案に際して、ねらいの立て方や子どもの理解・援助の方法等が学べるように主任と担任が助言しています。また、毎日目標を確認し、主任・担任と振り返りを行っています。 実習の最終日には、実習生と主任・担任で反省会をし、意見交換の機会としています。
--	---

評価領域V 人材育成・援助技術の向上


評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<h3>V-1 職員の人材育成</h3> <p>(1) 保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2) 職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。</p> <p>(3) 非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 採用されると必ず新採用時研修を受けます。その研修で保育の理念や保育方針を学び配属されます。保育園ではにじいろ保育の理念・方針を解説している「保育ガイド」を全職員に配布しいつでも読み返せるようにしています。また、職員会議で「保育ガイド」研修を行い保育の姿勢を確認し合っています。 職員・非常勤職員の区別なく「チャレンジ共有シート」を全職員が作成し園長面接を行います。そこでの気づきから毎年度、運営法人研修、外部研修、内部研修を調整して一人一人の研修計画を立てています。 内部研修は職員一人一人にアンケートを取り、学びたいテーマを「手遊び」「手作りおもちゃ」「運動あそび」と決めて2か月に一回のペースで行っています。外部研修は、横浜市こども青少年局・磯子区主催の研修、保育士養成校の研修など、専門分野（リトミック・造形等）の研修にも

	<p>積極的に参加しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤職員の指導は主任が担当しています。月一回のパート会議では主任を交えて日々の保育について話し合われています。
--	---

<h3>V-2 職員の技術の向上</h3> 	
<p>(1) 職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。</p> <p>(2) 保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を振り返り、改善に努める仕組みがあるか。</p> <p>(3) 保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジ共有シート」を作成し年三回の園長面談で振り返りを行いその中で気づきを促すことで職員一人一人が自発的に弱い部分を改善したり良い部分を伸ばすように取り組んでいます。 ・自己評価は計画で意図したねらいの振り返りを行い次回から保育に生かせるように記録しそこから出た改善内容は柔軟に計画に反映しています。 ・園の自己評価「にじいろの保育」があります。これは、にじいろの保育理念や保育方針を基に作成されています。 ・職員会議で「にじいろの保育」を利用して年2回、園の自己評価に取り組んでいます。そこで出た課題等は職員で共有し改善点を話し合っています。

<h3>V-3 職員のモチベーション維持</h3> 	
<p>(1) 本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに職員に責任を持たせ、園長、主任が経過報告を受け見守り、時にはアドバイスを行っています。また、園内研修では職員からアンケートをとり、リーダー会議で内容を吟味することで職員が自主的に学べるように努めています。

評価領域VI 経営管理

評価分類		評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）	
<h3>VI-1 経営における社会的責任</h3> 		
<p>(1) 事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。</p> <p>(2) サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務上の規律・規範・倫理等に関しては「保育ガイド」に明文化しています。職員会議では「保育ガイド」を用いて保育を振り返り、職員は再確認・再認識して保育を実践しています。 ・ゴミの削減やリサイクルは「環境への取り組み」として明文化し、各部屋に掲示して職員一人一人が意識して行っています。また、磯子区の「ゴーヤのグリーンカーテンづくり」に参加しプールの横の柵を利用して日よけを作成しました。 	

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- | | |
|--|--|
| <p>(1) 保育園の理念や基本方針等について職員に周知されているか。</p> <p>(2) 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。</p> <p>(3) 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。</p> | <ul style="list-style-type: none">• 保育理念や基本方針を解説した保育ガイドを全職員に配布し年度初めの職員会議で確認しています。• 重要な意思決定には保護者が説明会・面談を通して継続的に意見交換をしています。また、職員には職員会議で説明し議論を重ねています。• 主任は、パート職員の指導担当としてパート会議を行ったり、クラス会議に参加して職員の個々の能力に合わせたアドバイスや指導を行っています。また、職員の健康にも配慮し、各クラスをフォローしています。 |
|--|--|

VI-3 効率的な運営



- | | |
|--|--|
| <p>(1) 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2) 保育園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。</p> | <ul style="list-style-type: none">• 園長は運営法人の園長会や外部の園長会に参加し社会情勢の変化に柔軟に対応出来るよう情報収集に努めています。職員会議では理念や基本方針に沿った保育を実現するために「保育ガイド」を用いて確認をしています。• 将来を見据えた中長期的な計画を作成し、それを基に保育の質の向上・子育て支援、環境整備について日々検討しています。 |
|--|--|

利用者（園児）家族アンケートの結果概要

●実施期間

2016年8月18日～9月1日

●実施方法

- ① 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
- ② 各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。

●回収率

回収率：64.3%（56枚配布、36枚回収）

【結果の特徴】

※以下で「満足度」とは、「その他」「無回答」を除く回答総数における、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計の割合です。

(1) 満足度が高かった項目

問4：基本的な生活習慣（衣類の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	100.0%
問5：感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	100.0%
問6：保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	100.0%
問6：開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	100.0%
問7：アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	100.0%
問7：話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	100.0%

(2) 満足度が低かった項目

問4：自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	80.0%
問4：昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	80.0%
問4：家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	80.0%

(3) 総合満足度

問8：総合満足度は	94.5%
-----------	-------

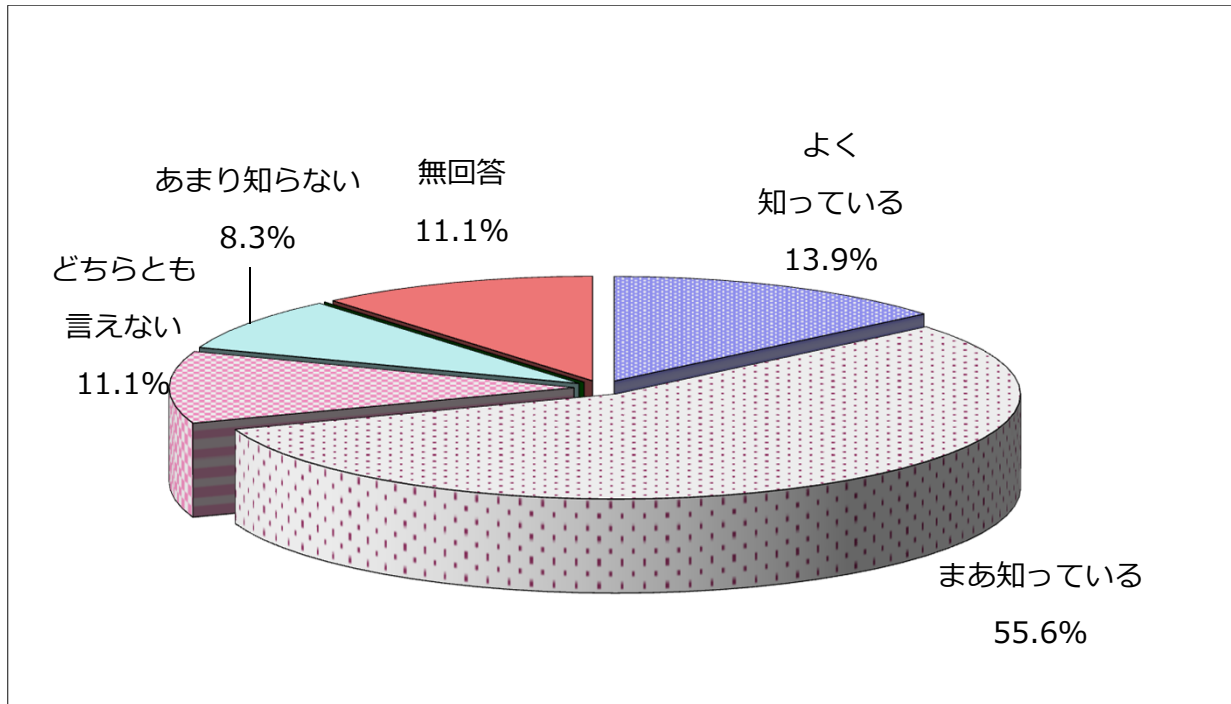
(4) 中項目ごとの平均満足度

問2：入園時の状況について	95.2%
問3：年間の計画について	85.7%
問4：日常の保育内容「遊び」について	87.4%
問4：日常の保育内容「生活」について	91.8%
問5：快適さや安全対策などについて	95.1%
問6：園と保護者との連携・交流について	95.2%
問7：職員の対応について	95.4%

利用者（園児）家族アンケート 集計結果・分析

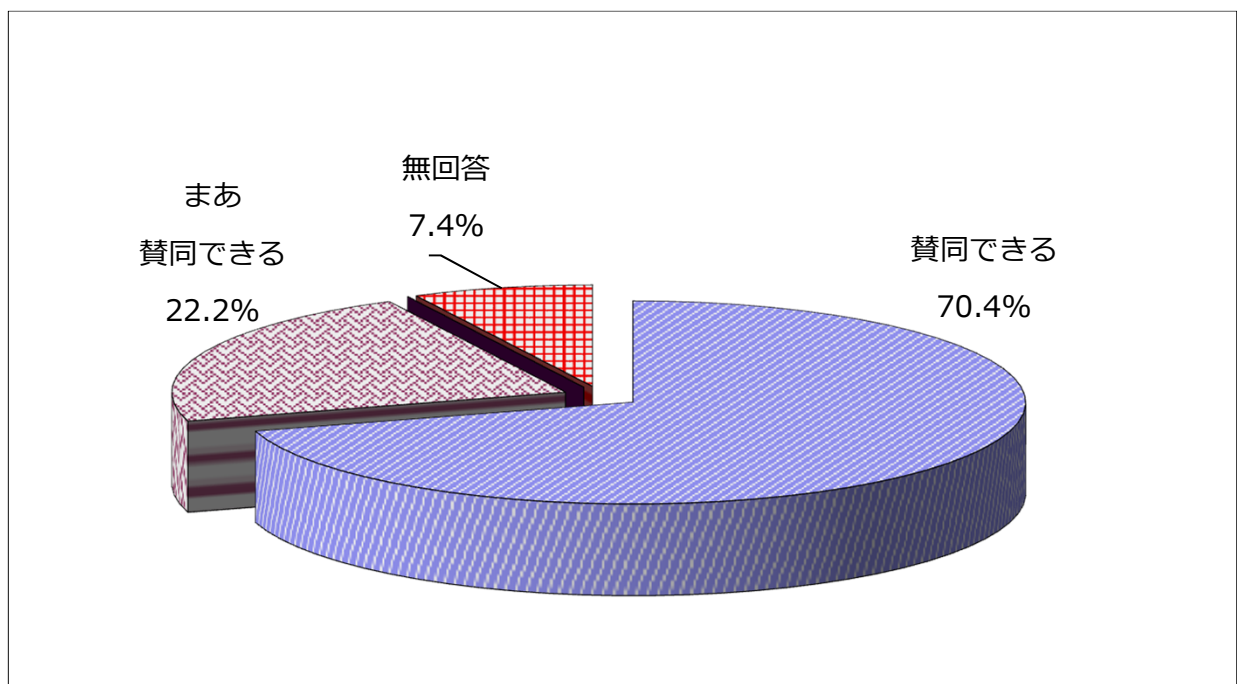
■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか



「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1 その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

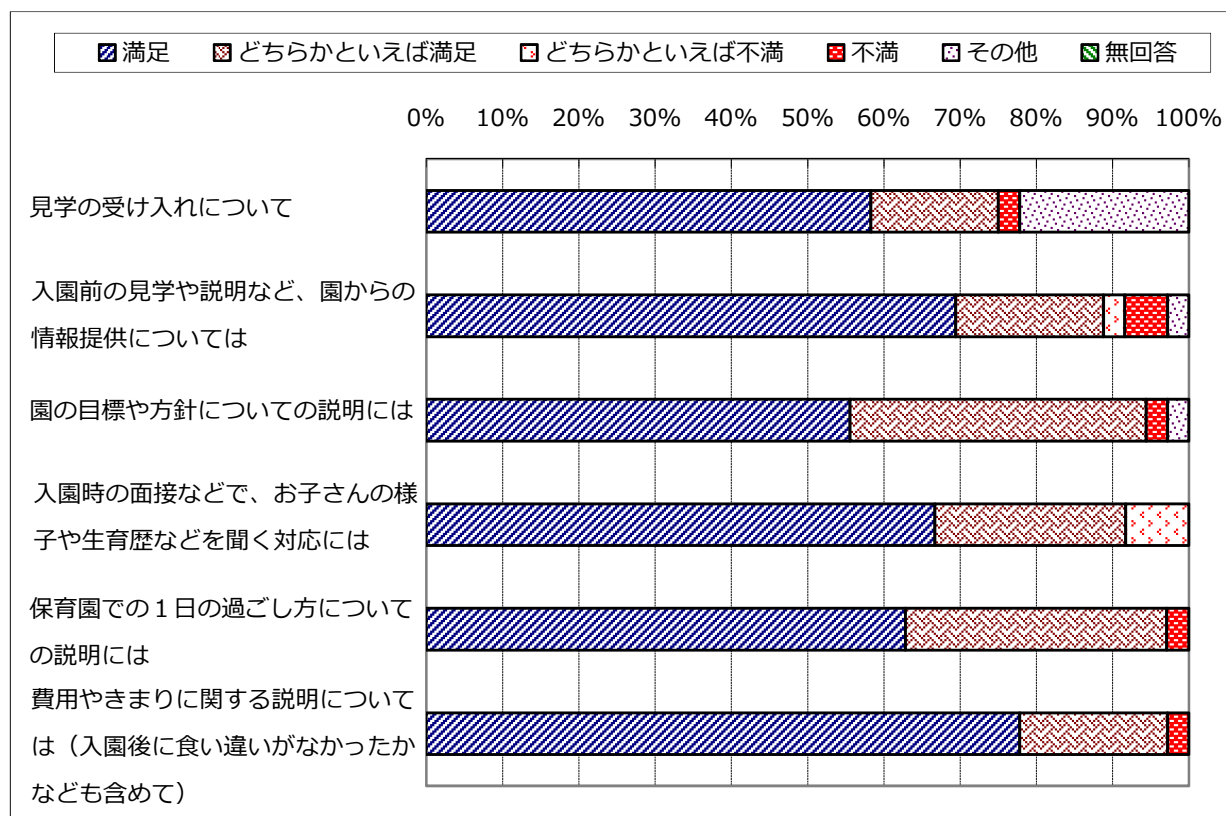


■ 保育園のサービス内容について

(%)

問2 入園時の状況について

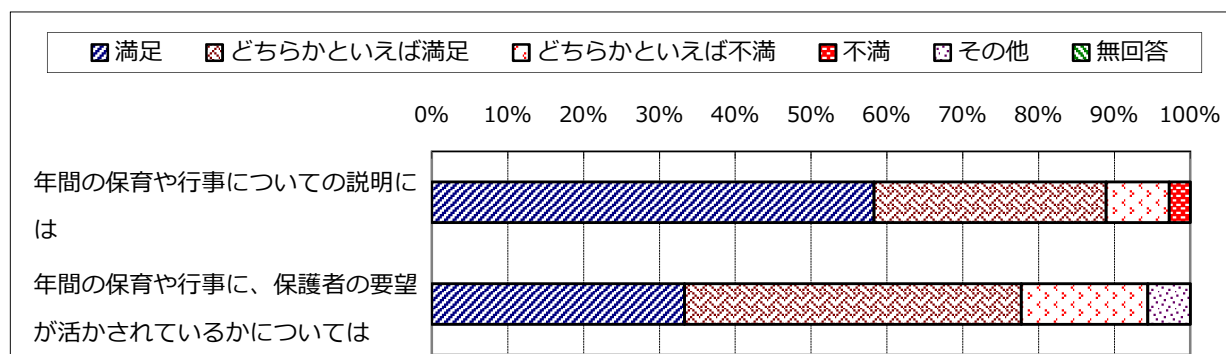
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについて	58.3	16.7	0.0	2.8	22.2	0.0
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	69.4	19.4	2.8	5.6	2.8	0.0
園の目標や方針についての説明には	55.6	38.9	0.0	2.8	2.8	0.0
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	66.7	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0
保育園での1日の過ごし方についての説明には	62.9	34.3	0.0	2.9	0.0	0.0
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	77.8	19.4	0.0	2.8	0.0	0.0



(%)

問3 年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	58.3	30.6	8.3	2.8	0.0	0.0
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	33.3	44.4	16.7	0.0	5.6	0.0

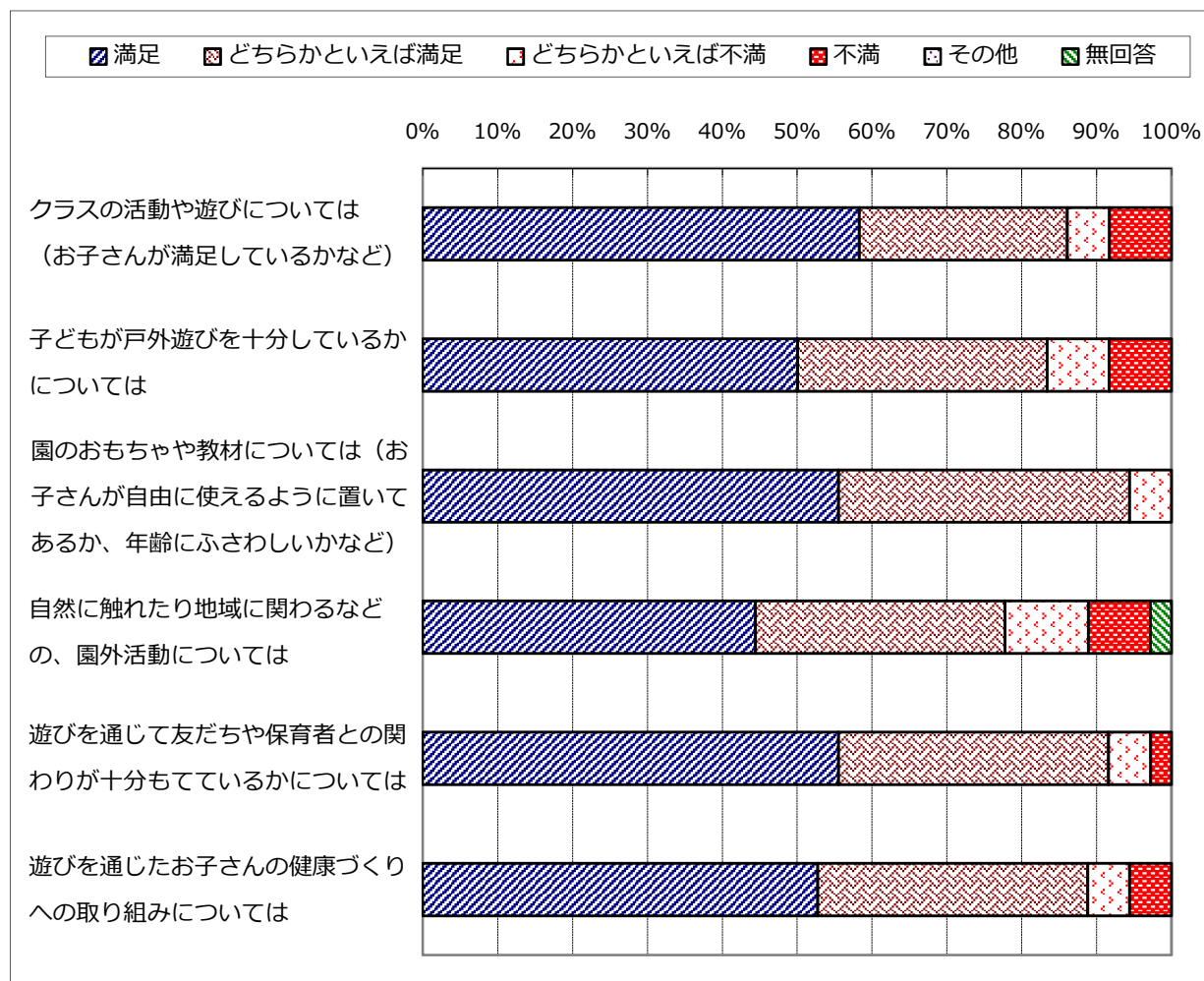


問4 日常の保育内容について

● 「遊び」について

(%)

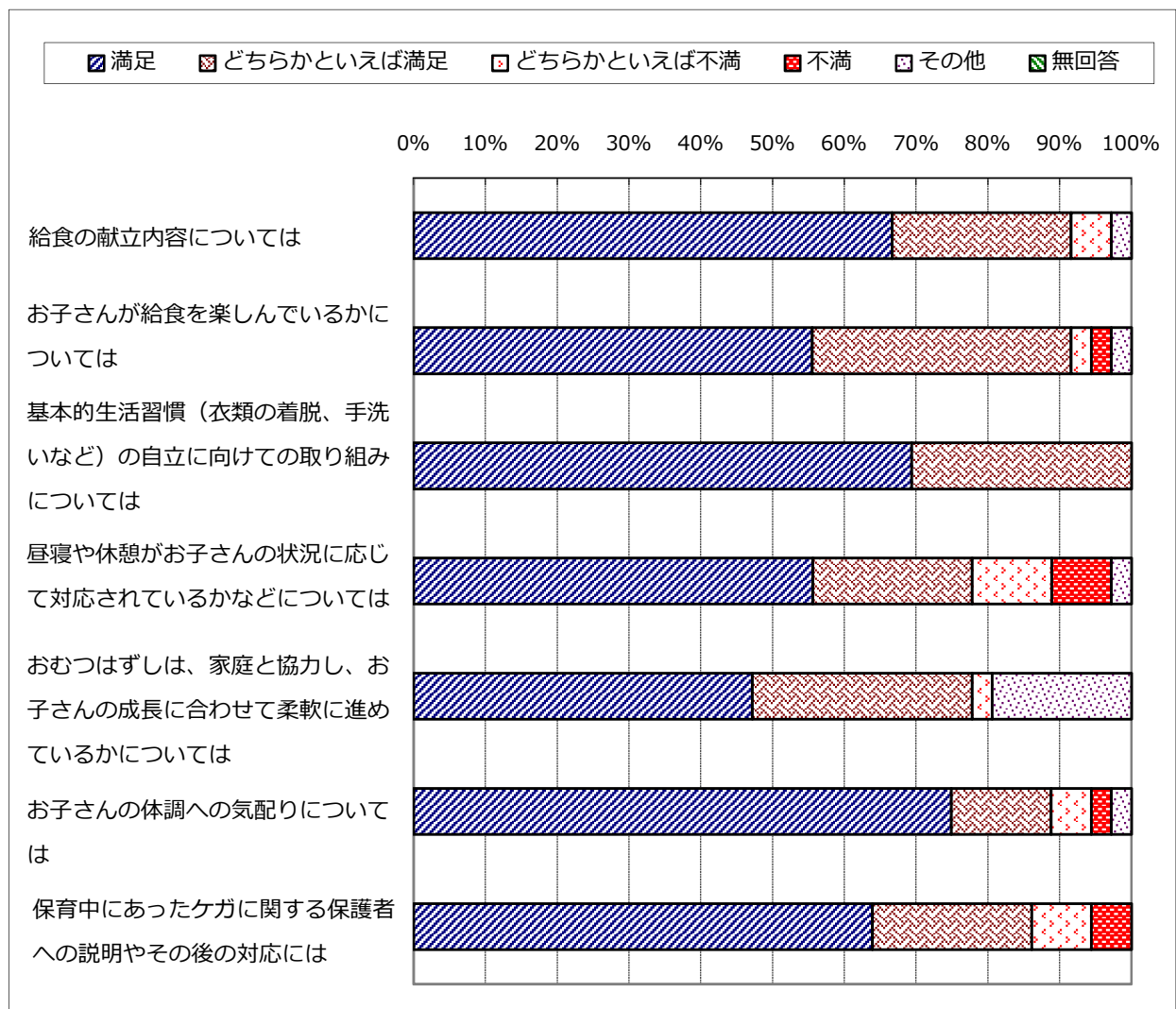
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	58.3	27.8	5.6	8.3	0.0	0.0
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	50.0	33.3	8.3	8.3	0.0	0.0
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	55.6	38.9	5.6	0.0	0.0	0.0
自然に触れたり地域に関わるなどの、 園外活動については	44.4	33.3	11.1	8.3	0.0	2.8
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	55.6	36.1	5.6	2.8	0.0	0.0
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	52.8	36.1	5.6	5.6	0.0	0.0



●「生活」について

(%)

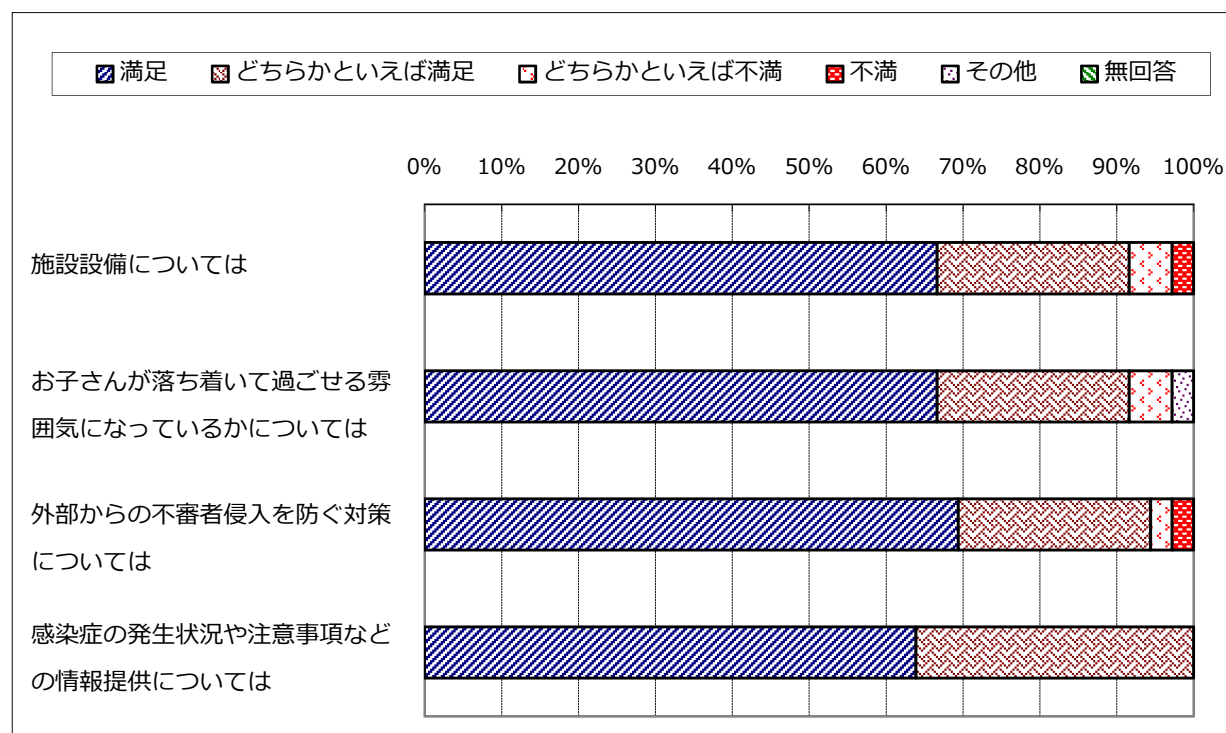
	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	66.7	25.0	5.6	0.0	2.8	0.0
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	55.6	36.1	2.8	2.8	2.8	0.0
基本的な生活習慣（衣類の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	69.4	30.6	0.0	0.0	0.0	0.0
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	55.6	22.2	11.1	8.3	2.8	0.0
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	47.2	30.6	2.8	0.0	19.4	0.0
お子さんの体調への気配りについては	75.0	13.9	5.6	2.8	2.8	0.0
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	63.9	22.2	8.3	5.6	0.0	0.0



問5 快適さや安全対策などについて

(%)

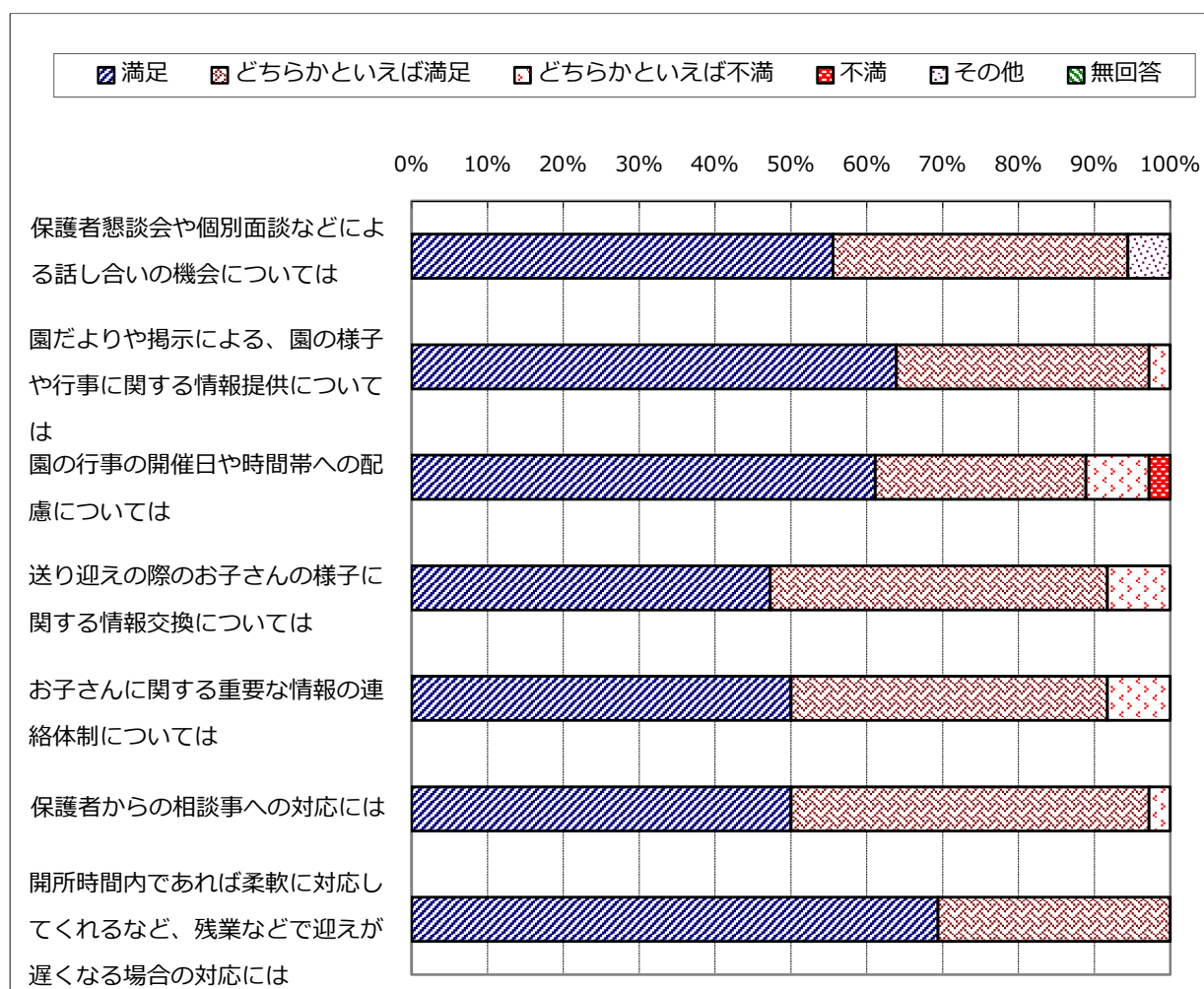
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	66.7	25.0	5.6	2.8	0.0	0.0
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	66.7	25.0	5.6	0.0	2.8	0.0
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	69.4	25.0	2.8	2.8	0.0	0.0
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	63.9	36.1	0.0	0.0	0.0	0.0



問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

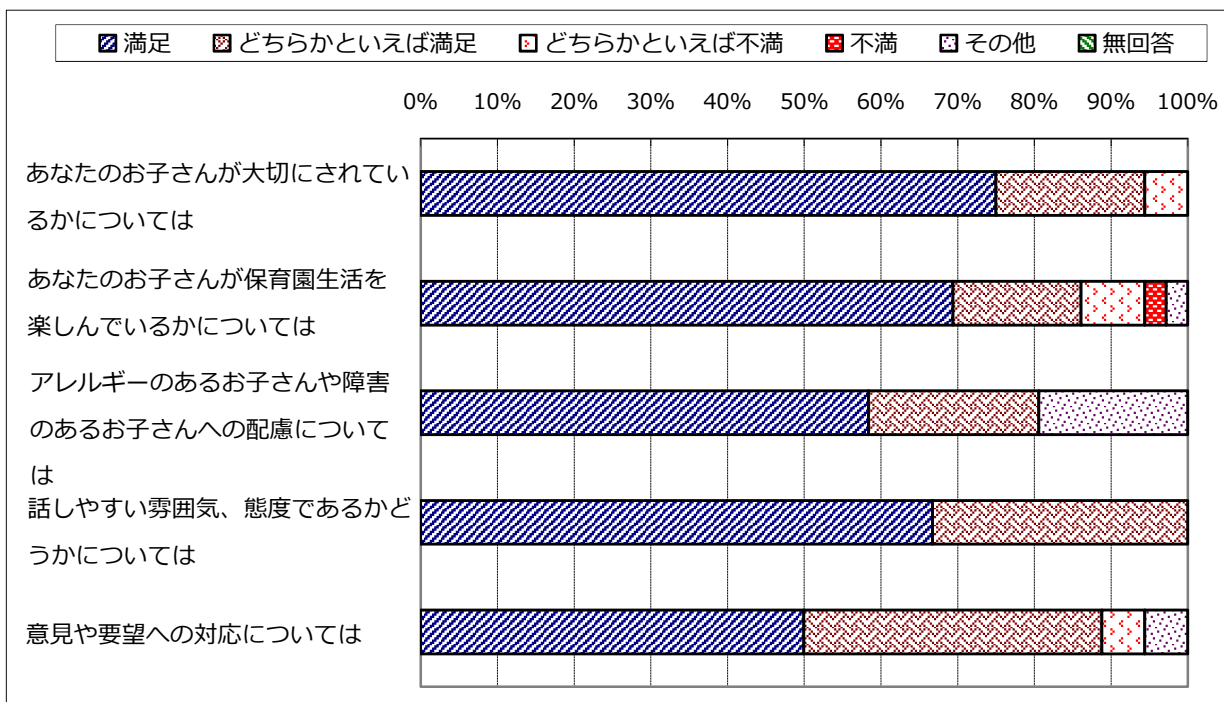
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	55.6	38.9	0.0	0.0	5.6	0.0
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	63.9	33.3	2.8	0.0	0.0	0.0
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	61.1	27.8	8.3	2.8	0.0	0.0
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	47.2	44.4	8.3	0.0	0.0	0.0
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	50.0	41.7	8.3	0.0	0.0	0.0
保護者からの相談事への対応には	50.0	47.2	2.8	0.0	0.0	0.0
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	69.4	30.6	0.0	0.0	0.0	0.0



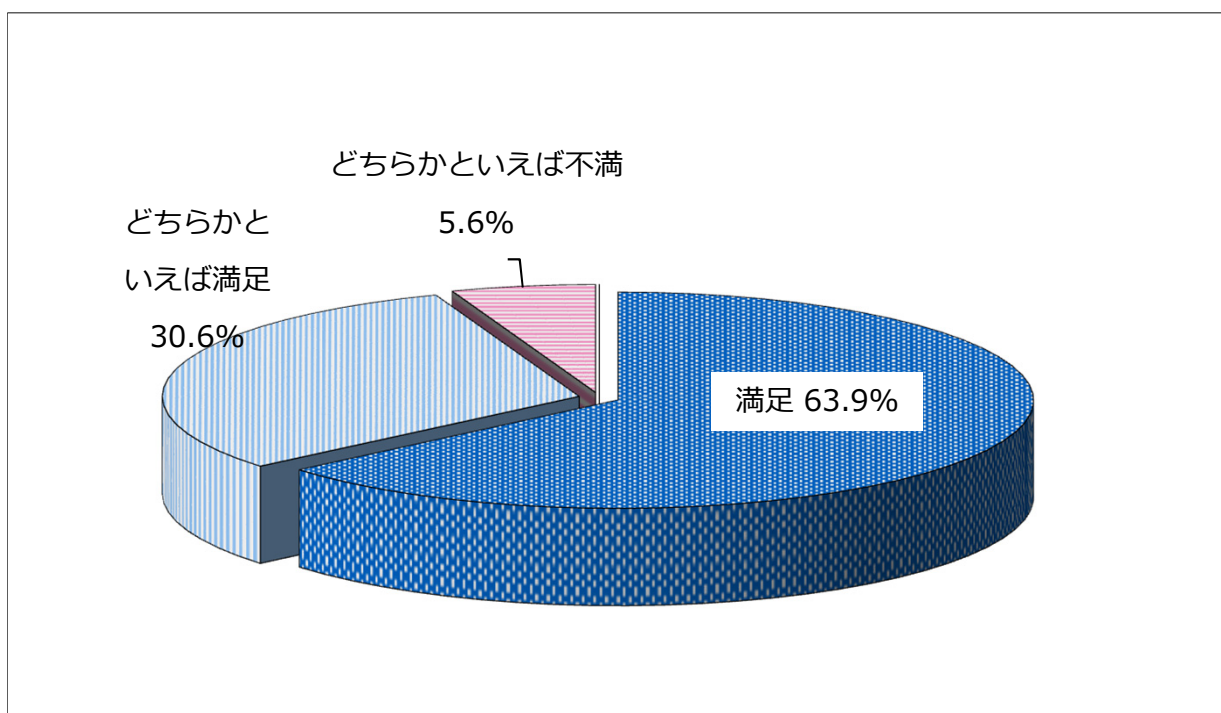
問7 職員の対応について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	75.0	19.4	5.6	0.0	0.0	0.0
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	69.4	16.7	8.3	2.8	2.8	0.0
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	58.3	22.2	0.0	0.0	19.4	0.0
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
意見や要望への対応については	50.0	38.9	5.6	0.0	5.6	0.0



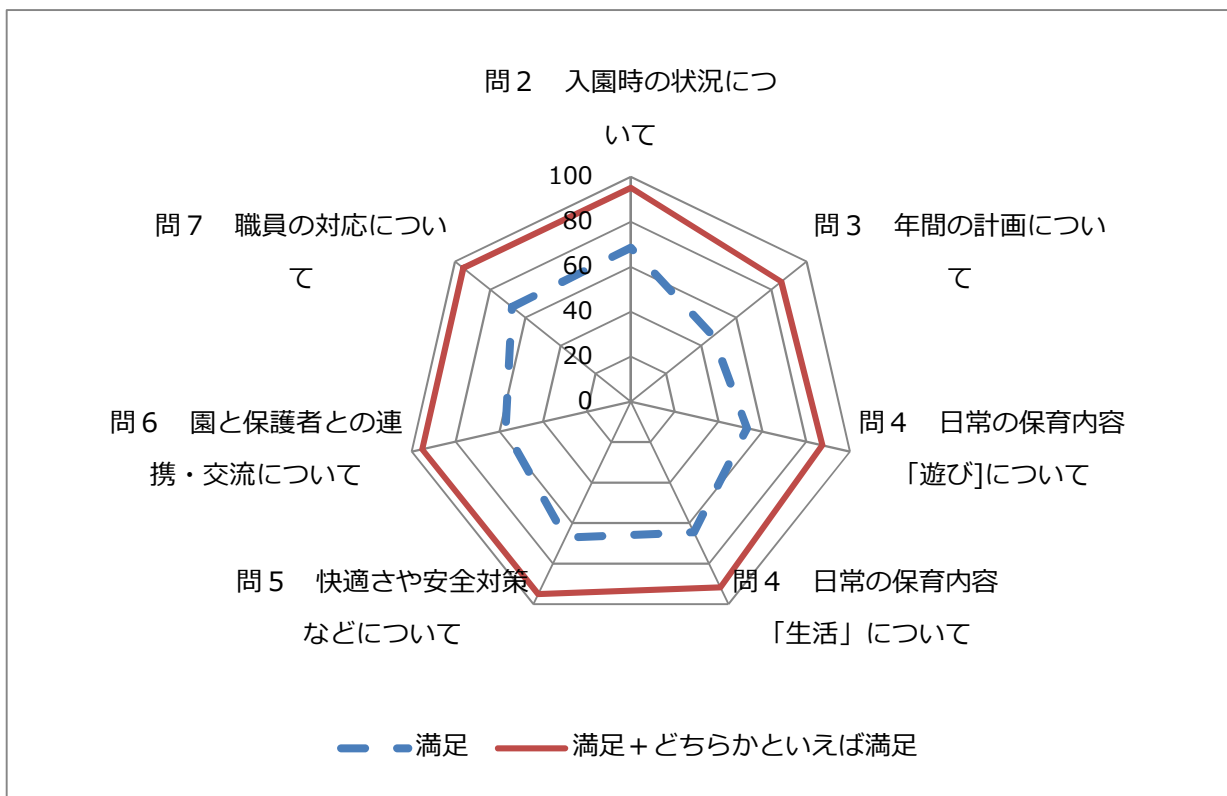
問8 保育園を総合的に評価すると



【参考資料：中項目別平均満足度割合】

(%)

中項目	満足	満足+どちらかといえば満足
問2 入園時の状況について	68.5	95.2
問3 年間の計画について	46.8	85.7
問4 日常の保育内容 「遊び」について	53.0	87.4
問4 日常の保育内容 「生活」について	64.5	91.8
問5 快適さや安全対策などについて	67.2	95.1
問6 園と保護者との連携・交流について	57.2	95.2
問7 職員の対応について	67.7	95.4



※各中項目は、2～7つの小項目によって構成されており、各小項目の満足度割合から平均値を算出した。

※ここでの「満足度割合」は「その他」「無回答」を除外して計算してある。

利用者（園児）本人調査の結果概要

実施日：10月18日（火曜日）・10月20日（木曜日）

実施方法：観察調査を調査員が各クラスで実施し、戸外・園外での活動も観察した。

幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。

●0歳児クラス

このクラスはすでに全員が1歳になっていて、みんなで一緒に活動することができるようになっていきます。4人乗りのバギー2台、子ども8名と保育士4名で近くの公園に出かけました。子どもたちは言葉はまだですが、自分の意思がはっきりしています。公園で保育士が、バギーから降りて遊ぶ草むらに危ないものがないか見回っている時に、もう降りたくて「ウウウ」と体を乗り出します。降りてもらおうと草むらではなく、行きたい方を「アッアッ」と指さし、トントン歩き出しました。保育士は草むらにこだわらず、子どもたちの歩くにまかせ、見守ります。保育士がシャボン玉を始めると寄ってきて両手をあげ、「(しゃ)ぼ!(んだま)」、また「(しゃぼんだ)ま!」と歓声を上げます。お茶になりました。バギーに座って自分でコップから飲みました。帰る時になってもコップを離さない子どもがいると、保育士はその子をバギーから降ろし、シートを敷いて対応していました。

●1歳児クラス

子どもたちはおやつの前に部屋の隅の壁を背にして座り、呼ばれた子どもが3人、部屋の水道に手を洗いにいきました。次に呼ばれた3人が後ろに並びます。全員手を洗うとおやつの時間になります。食べ終わるとまた同じ壁を背にして集まり、保育士が絵本「大きなかぶ」の読み聞かせを始めます。3人ずつ散歩準備をして散歩です。散歩は園庭の中ですがみんな元気です。

散歩から帰るとトイレです。保育士が「オムツ持ってきてね」と言うと、一人一人オムツを持って乳児用のトイレに行きます。トイレに親しむ時期です。オムツを替えてもらう子どももいますが、ほとんどの子どもは便器に座ります、成功してもしなくても。そして自分でパンツをはこうとします。トイレの終わった子どもが部屋に戻ると保育士が絵本をみせています。一呼吸おいて食事です。スプーンを使う子どもも、手づかみの子どももいます。保育士が、「Oちゃん、スプーンでたべてごらん」と誘うとスプーンで上手に食べました。「スプーンで食べてもおいしい?」「おいしい」「じゃ、スプーンでどうぞ」。その子どもはちょうどスプーンに移行する時期のようです。お皿が空になると「はい」と、保育士に渡していました。

●2歳児クラス

その日は0歳児クラスと2歳児クラスが園庭に出ました。細長い園庭の真ん中に運動会で遊んだ手作りの長い蛇に子どもが集まってきます。蛇をまたいだりジャンプする子どももいます。少し離れた場所では音楽がかかり、保育士と子どもたちが運動会で使ったぼんぼりを手にそこで披露した踊りを踊っています。曲が終わると「もう一回やる」、終わるとまた「もう一回やる」です。砂場では黙々とプリンづくりなどをする子どももいます。2歳児が思い思いに遊んでいるところに0歳児が保育士と一緒に遊びに入ります。

部屋に戻ると手を洗い、思い思いに遊びます。一人遊びが多いですが、時々「貸して」という声も聞こえます。2人の子どもが保育士と一緒に給食室に食事をもらいに行きました。いつも給食室に行きたい子どもが多く、今日選ばれた2人でした。

●3 歳児クラス

このクラスも散歩です。行く前から何をしようかみんな決めて出発です。紅取公園第一に行き、それから紅取公園第二に行くコースです。紅取公園第一では、まず最初にみんなでかけっこです。保育士と一緒に元気いっぱい走りました。紅取公園第二に行く途中でクモや大きいカマキリを見つけて大興奮です。保育士がとって「園長先生に後で見せようね」と言うのと更に興奮。紅取公園第二に着いて4歳児、5歳児クラスと合流すると、早速カマキリをとったことを話していました。帰園して園長にカマキリを見せると園長が即席で虫かごを作ってくれました。

給食は保育士が配膳します。子どもたちは壁に貼ってある絵を見ながら主食・副食・野菜・ご飯・お味噌汁・デザート絵の通りに並べて「いただきます」になります。みんな箸を使っていましたが、保育士が様子を見て箸が難しい子どもに対してはフォークを用意していました。食べ終わった子どもは自分のコップを持ってきてうがいと歯磨きをします。歯磨きは子どもたちが自発的に行っていました。

●4 歳児クラス

9時までは、5歳児と一緒に過ごします。積み木、ブロック、ままごと、折り紙、コマなどの、それぞれ自分がやりたいコーナーで何人かで遊んでいます。9時近くになると片づけて自分の部屋に行きました。

今日は体操教室です。体操着に着替えてさあ、始まりです。一人で体を動かすのではなく2人一組で体操しました。最後は二つのチームに分かれ、一つのチームは手をつないで網をつくり、もう一つのチームはその網の中に入ります。網に入った魚チームが網から逃げるゲームです。保育士が怪我がないように気を配りながらスタートです。網のチームは逃げられないように、魚チームは網から逃げるようにお互い全身を使って汗をかきました。

体操教室が終わると着替えて今度は園庭でリレーゲーム、その日はみんな力いっぱい体を動かしました。園庭から帰ると自分でトイレに行きます。トイレのスリッパをそろえる子どももいます。そして保育士が絵本の読み聞かせをし、子どもたちは気持ちを切り替えて、落ち着いて昼食準備になります。2人の当番が机を拭き、みんな静かに席に座って配膳を待ちます。

●5 歳児クラス

朝の会で元気よく朝の歌を歌いましたが、そのあと座ってがやがやしていると、保育士は「静かに」ではなく、「聞いてほしいな」と語りかけます。その日は公園に出かけました。到着すると今日の遊びについて話し合います。「バクダンゲームのいい人？」すると大勢が大きな声で「はい」と手を上げます。「ドッチボールがいい人？」今度は3人が手を上げました。保育士は「バクダンゲームに賛成した子が多いので、今日はバクダンゲームをします。ドッチボールはまたの機会にしましょう」と言って、3人の同意を得ました。その後、バクダンゲームが終わりフリータイムになると、いつのまにかドッジボールが始まりました。子ども5人と保育士1人です。自分達でラインを引き、さてグループ分けをどうするか、ということになり、一人の子どもが「ジャンケン」を提案し、帽子で緑組、黄色組に分けました。これも子どもの提案です。そして「先生はエプロンが黄色なので黄色組」と子どもが言います。保育士は、遊びの中で、ボールの取り方、投げ方を教え、「よく取れたね！じょうず！」の声と拍手がでました。

●まとめ

子どもたちは0歳児クラスの時からしっかりと気持ちを受け止めてもらい、穏やかに元気に、そして興味・関心をもってよく遊び、集団活動のルールを学びながら園生活を楽しんでいます。

事業者コメント

開園して3年目で初めて第三者評価を受審いたしました。第三者評価を初めて受ける職員もおり不安もありましたが、園内研修を進めるうちに、全職員一人ひとりが自らの保育を振り返り、保育や運営に対して共通認識を深めることができました。

保護者の皆様には、日頃から保育園の運営にご理解とご協力をいただきまして感謝申し上げます。今回のアンケートから更に園に対する期待や思いも伝わりました。大変感謝しております。

調査員の皆様には自然な形で日頃の保育を丁寧に観察していただきましてありがとうございました。

今回の受審により園の良い所や今後の課題も見つかり、職員の自信と励みにもなりました。今後もあたたかな保育、丁寧な保育を心がけ、保護者の皆様や地域の皆様にも喜んでいただけるように職員一同努めて参ります。

(株) サクセスアカデミー
にじいろ保育園磯子
園長 半澤 裕理



-評価で次のステージへ-
since 2012

合同会社 評価市民・ネクスト

〒231-0003 横浜市中区北仲通 3-33 関内フューチャーセンター153

Tel: 050-3786-7048 Fax: 045-330-6048

URL: <http://www.hyouka-next.jp>